

40年超原発 県議会が事実上同意 知事、近く最終判断

県議会は二十三日、臨時会を開き、関西電力の運転開始から四十年を超えた美浜原発3号機（美浜町）と高浜原発1、2号機（高浜町）の再稼働について事実上同意した。再稼働を前提に国に原子力政策の明確化などを求める意見書を賛成多数で可決した。杉本達治知事は「議会から前向きな考えが示された」とし、二十四日に三基を視察すると表明。梶山弘志経済産業相、関電の森本孝社長との面談を経て、近く同意の最終判断をする。――関連②面

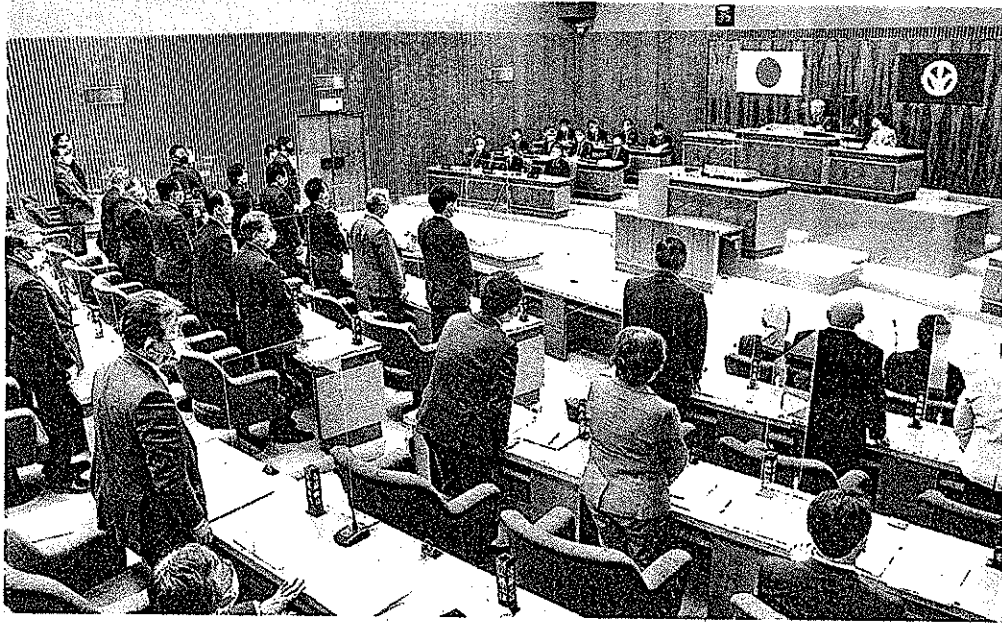
再稼働すれば、福島第一原発事故後にできた、運転は原則四十年、延長は一回限り二十年のルールの下で初めてとなる。

意見書は議席の七割超を占める最大党派「県会自民党」が提出した。国が今夏にも改定するエネルギー基本計画に原子力の位置付けを明記するよう求め、具体

意見書で示された国への要求要旨

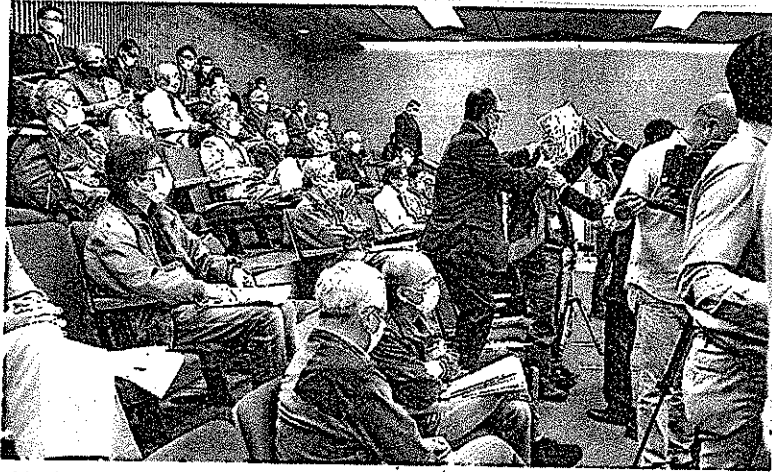
- 新たなエネルギー基本計画で、既存原発の運転延長や次世代原子炉の開発推進など、原子力政策の方向性を明確にする
- 国が前面に立って国民理解活動を進め、成果を示す
- 「立地地域の将来へ向けた共創会議（仮称）」を早急に設置し、新産業の創出などの具体的な地域振興策を講じる
- 地域防災、避難計画に関し、県境の避難道路整備を継続。感染症発生に備え、実効性ある移動手段、避難先を確保する

例として「安全性を最優先とした既設発電所の運転延長」を挙げた。第二会派「民主・みらい」が提出した六月定例会での慎重な再稼働議論を求める決議案は否決された。また、再稼働に前向きな請願一件を採



再稼働反対や慎重な議論を求めた請願五十九件を不採択とした。傍聴者が再稼働反対の意思を示すプラカードを掲げ、退場を命じられた一幕もあった。

原発の40年超運転を前提とする意見書を賛成多数で可決した県議会23日、県議会議事堂で
閉会后、杉本知事は可決された意見書について「慎重な言い回しの部分があるが、よく読むと四十年超運転を前提としている」と説明。同意の判断時期は明確しなかったものの「確認すべきことはだいたい煮詰まっている。そんなに時間をかけて、というところではない」と述べた。
三基の再稼働同意を巡っては、高浜町議会が昨年十一月に、美浜町議会が同十二月に同意。高浜町の野瀬豊町長が今年二月一日、美浜町の戸嶋秀樹町長が同十五日にそれぞれ同意した。臨時会ではこのほか、新型コロナウイルス対策として三十八億六千万円を追加する一般会計補正予算案など三議案を可決し、閉会した。（浅井貴司、山本洋児）



傍聴席の反対派「残念だ」

関西電力の四十年超原発

への再稼働判断が注目された二十三日の県議会臨時会は、県内の原発反対派の人たちを中心に五十席用意された傍聴席がほぼ埋まった。閉会后、傍聴者から「残念だ」との嘆きが聞かれた。

県議会局によると、この日の傍聴

禁止された意思表示をして、制止せられる傍聴者

者は四十二人。請願などを巡る討論で共産党や無所属の議員が、慎重な判断を主張すると度々拍手が起きた。傍聴者の意思表示は県議会規則で禁じられており、畑孝幸議長が「拍手は禁止。静粛に」と注意。大声を出すなどの行為もあり、議長の命令で二人が退場した。

臨時会では、再稼働を念頭にした意見書案が賛成多数で可決された。傍聴していた坂井市の男性(名)は「再稼働に賛成の意思を示した県議は、(四十年超原発の三基で)事故があればあなたにも責任が生じることを忘れないでほしい」と話していた。(尾嶋隆宏)